た。現在も経過観察中である。

31. 慢性維持透析患者に発症した肺小細胞癌における化学療法の1例

清水秀文，船橋秀光，渡辺励子
滝口裕一　（千大・肺内）

糖尿病性腎症に対する慢性維持透析施行中に肺小細胞癌を発症した58才男性に，Cisplatin 80mg／m²（第1日）およびEtoposide 100mg／m²（第1，3，5日）併用による化学療法を4コース施行。有効な効果を認め，重篤な副作用も認められなかった。今回の症例は経時的に抗癌剤の血中濃度を測定し，今後，慢性維持透析患者に対する化学療法をするうえで興味深いと思われたため報告した。

32. 肺腺癌にネフローゼ症候群を合併した1例

吉浦浩平，森　典子，斉藤正佳
（国保成東・内科）

症例は59歳男性。肺腺癌に癌性心膜炎による心タンポナーデを合併，カルボプラチンの心嚢内投与を行い退院した。その後心嚢水の再貯留は認められなかったが，ネフローゼ症候群を発症した。一日の尿蛋白量は30グラムを超え，血清アルブミンは1.4g／dℓ，全身の浮腫は著明であった。入院後ステロイド療法を開始したところ治療が奏功し約6週間後には尿蛋白，全身浮腫ともにほぼ消失し退院となった。

33. 珪肺に合併した肺癌切除例2例の検討

柿澤公孝（県西総合・呼吸器外科）
杉原毅彦，吉田一也，唐木洋一
大森敏生，漆原　徹，横山孝一
（同・外科）

（症例1）72歳男性，石材業。珪肺（第1型），喘息にて当院に通院中，左上肺野に新陰影を指摘，平成11年5月26日，左上葉切除術，肺動脈形成術，リンパ節郭清術を施行。中分化乳頭状腺癌，pT1N0M0

（症例2）61歳男性，石材業。咳嗽等を主訴に当院を受診。珪肺（第Ⅲ型）に合併した肺癌の診断にて平成11年6月3日，左下葉切除術，肺動脈形成術，リンパ節郭清術施行。中分化腺癌，pT2N0M0

34. 肺腺癌手術後，CEA産生乳癌を認めた重複癌の1例

川野　裕，永井啓之，高屋敷吏
田中英穂，小山隆史，井上育夫
安野憲一，福田　淳
（小田原市立・外科）
大山雅代，中村祐之，河野典博
（同・呼吸器科）
長谷川章雄　（同・病理）

症例は55歳女性。平成8年7月，肺腺癌の診断にて左下葉切除術を行った。病理病期はpT4N2M0，Stage ⅢBであり，術後に放治および化学療法を行ったが次第にCEA値の上昇を認め，精査するも転移再発を認めなかった。しかし，平成10年11月，左腋窩にリンパ節を触知，また右乳房に約3cmの腫瘤を認めたため，Auchincloss法による右乳房切除術と両側腋窩リンパ節郭清術を行った。腫瘍は浸潤性乳管癌であった。

35. 気管分岐部形成術を施行した気管原発腺様嚢胞癌の1例

深澤敏男，柴　光年，佐藤行一郎
（君津中央・呼吸器外科）
篠崎俊秀，山川みどり
（同・内科）
松嵜　理　（同・病理）

比較的稀な気管原発腺様嚢胞癌を経験した。症例は36歳女性。主訴は呼吸困難。気管支鏡下に気管内腔の80%を占める腫瘍を指摘され，緊急レーザー照射にて気道確保後，紹介された。気管の後左方1/4周を占め，左主気管支に達し，食道を圧排する長径45mmの腫瘍にて，5軟骨輪を含む腫瘍・気管分岐部切除後，モンタージュ法にて再建した。病理診断は腺様嚢胞癌，断端陽性にて放射線治療後退院した。現在術後6ヶ月にて再発を認めない。

36. 心膜合併切除例に対する自己遊離大腿筋膜補填術の経験例

卜部憲和（沼津市立・呼吸器外科）

症例は65才，男性。平成11年8月，当院呼吸器内科より右S4発生の腺癌cT3N0M0の診断のもとに紹介され9月7日右上中葉および心膜合併切除・リンパ節郭清術を施行した。心膜欠損部は自己遊離大腿筋膜により補填し良好な経過を示したので報告する。